

## Webデザイナーの仕事

簡単に言えば「Webサイト/ホームページを制作する人」です。現在では、インターネット上に氾濫するWebサイトは、その創世記といっても良い1990年代半ばにグラフィックソフトを使って画像を作ることができて、それをHTMLという専用の言語を駆使して「チラシ広告」的なものを作ることができれば、それすなわち「Webデザイナー」と呼ばれていました。その後、簡単にWebサイト制作を可能にした画期的なソフトが登場すると環境は一変し、パソコンの知識が少々あれば制作可能になり、それを契機にWebサイトは急速に「チラシ広告」的なものから企業や商品を紹介・説明するだけに留まらず、企業や商品のイメージアップやショッピングサイト等を構築するといったより積極的な訴えかけや検索エンジン(ヤフーやグーグル等)で如何に上位に表示させるか、映像や音楽等の発信への対応も行います。最近ではモバイルやスマートフォンへの対応、ブログやツイッター、フェイスブックといったものとのリンクなど多岐多様なニーズへの対応が求められるようになっていきます。そうなる簡易なソフトだけでは対応できず、それらをWebサイトに如何に反映させるかの新しい手法や技術を日々研究します。その出来映えが企業の業績を左右しますから。したがって現在では「Webまわりの万屋(よろづや)」的な役割の広い知識と技術を持つ人を「Webデザイナー」と呼んでいます。

## Webデザイナーへの転身

公務員試験を経て、大学を卒業後に地元市役所の児童福祉課という職を得ました。志望した動機としては、ひとことで言うところ「安定」でした。役所では母子福祉関連(保育所、母子寮、孤児院、乳児院等と市民との間にたつ仕事)に従事し、市民の日々生活に深く携わる仕事です。そのころ地方自治体には「電算化」いわゆる、アナログからデジタルへの移行が本格化し始め、パソコン時代の到来でした。学生時代にパソコンを

使って簡単なゲームを作った経験や知識などから私が課内で抜擢され、各種研修や外部・民間企業と共同でプログラム作成などを行い、それを通じてパソコンを基礎から学び直す機会にも恵まれました。日常の仕事とパソコンの勉強との両立させる生活は私にとって睡眠時間を削ってでも有意義なものでした。6年が経過し、仕事がより広く深くなると一般的な公務員のイメージにある9時～5時といった勤務時間帯系は崩壊し、パソコンを触る時間はもちろん、食事や睡眠も十分に摂れない生活になりました。精神的に追い込まれた気がしました。本当は何をしたいのか? 何をすべきなのか? 悶々と自問自答するように。そして、自分自身が進むべき道を探すためと称して、役所を辞めて、求めていたはずの「安定」を捨てました。アルバイトや契約社員という形でジャンルを問わず新進気鋭の企業5、6社で働きました。その先々で知ったことは、どこもが当時はまだ一般的ではなかった「Web」というものへの関心が急速に増していること、そしてその将来性に期待していることでした。「不安定」な生活が3年ほど続く中で、「Web」というものへの興味がより強くなりました。時間を見つけては公務員時代に学んだプログラミング言語などを更に深く掘り下げてWebの作成のための勉強を始めたのはこの頃です。幸い(?)にして、独り身でしたので何とか食べていける分だけアルバイトをし、残りの時間をパソコンへ当てるという生活。ある時、たまたま知り合いの造花の店主からのWeb制作の依頼があり、自分の実力を試してみたいと無我夢中で無償でしたが、Webサイトを作りました。今思うと、非常にシンプル(陳腐)なものでしたが、完成した時の感動は何事にも替え難いほど大きかったと記憶しています。しかしその反面、冷静になって先駆者達のものと比較して私はここまでしかできないのかという失望感も痛切に感じました。この失望感が、後の私自身のバネになりました。生活の為にアルバイトは続けながらも、今までに手にすることもなかった外国のパソコン雑誌を読み漁り、Webサイトは見る側から作る側に立って国内外問わずに隅々まで研究しました。今までに学んだことの底の浅さに気が付き、貪欲に知識を吸収していった時期でした。アルバイ

トなどを通じて知り合った人の中に大手の制作会社の社長がいました。彼は、急な仕事で人が足りない、下請けでWeb制作の手伝いをしてくれないかと言ってくれました。プロとして初めての「仕事」のチャンスです。(たぶんチャンスをくれたのだと)必死のバッチ。その結果は、仕事が早い、丁寧との評価。その後毎月決まって2～3件の仕事を頂くようになり、生活の目処も。1年ほど経ったころ、制作したWebが名刺替りになり、お客様からの直接のWeb制作の依頼が来るようにもなりました。利便性を考えて、自宅を出て事務所兼住居のワンルームを大阪市内に借りた時は、一国一城の主になったというようなささやかな自負が芽生えた気がしました。それから早いもので10年が過ぎ、気がつけば日々進歩と拡大を続けるWebの波に揉まれながら、遅咲きですが、次世代(?)の若いWebデザイナーやプログラマーを抱えるようにもなりました。今ではWebの制作自体は少なくなり、経営者、ベテランデザイナーとしてのディレクション、営業的な仕事が多くなりましたが、新たな手法や取り組みを導入する際は私が率先して作成します。(実は、あれこれと試行錯誤するのが楽しくて仕方ありませんので)

## この仕事をして良かったこと

モノを作るという仕事に就いた人には共通かもしれませんが、出来上がった仕事・モノを目にしたときの気持ちの高揚につきます。特に、作り上げたら即ディスプレイから目に飛び込んでくる、広い世界で一斉配信というものこの仕事ならではの醍醐味です。また、テレビ、ラジオ、雑誌媒体などとは、反応速度が桁違いである点も。

## この仕事を目指す人へ、そして求められる素養

好奇心。パソコンに関連する仕事となると、とかくディスプレイに向かい、ひたすらキーボードを叩いて世俗から隔離された環境をイメージしがちですが、その実は全く

の逆です。世間一般に氾濫するありとあらゆるものに関心を持ち、何か感性に訴えるものが無いかと何事にも興味を持つことが必要です。日進月歩というか(秒進時歩くらいの感覚ですが)、取り巻く環境、ニーズ、技術などあらゆるもの進化と拡散のスピードが半端ではなく、油断すると即、浦島太郎になってしまいます。ジャンルを問わず、常に全身の五感を頼りに常にアンテナをぐるぐる回さねばなりません。昨今のツイッターやフェイスブックに代表されるように誰も知らなかったものがほんの数分で認知される、ネットショッピングの台頭への対応も広い商品知識が必要になります。(それら商品などを売り込む為のWebを作るわけですから)忍耐力。一つの仕事を終えるのに短くても1ヶ月、長ければ半年くらいの長い時間が掛かることがあります。その間、自分自身のモチベーションを保ち、仕事を継続させることが必要です。資格。ウェブデザイン技能士などの資格検定があります。未経験者がこの仕事を目指すのであれば、資格の取得は有効だと思います。資格自体は、持っていれば即仕事にありつけるという性格のものではありませんが、この資格検定試験をパスする為に基礎から学ぶ行為、姿勢が良い経験、知識となります。

## 最後に。

この仕事をする空間は、パソコンとデスクの周り半径数メートルではありません。Webサイトのアドレスの頭のHYPERLINK "http://www" のwwwって何か知っていますか? World Wide Web ワールド・ワイド・ウェブの略なのです。この仕事は、大袈裟ではなく全世界がフィールドです。誰よりも広い視野を持ち、そして何にでも興味を持ってください。インターネットやモバイル、スマートフォンなどで繋がった全人類を相手にする仕事なのですから。

